

グループB「れんあい」(仮)

タカコ

メグ

ワタ(ワタダ)

カナエ

アカリ

ハスミ

シホリ

ヨシヒロ

アキト

カズキ

先生(ハママラ)

父親(ハルナ)

グラウンド

雨が降っている。

女の子が一人グラウンドの前に来て立ち止まる。傘は持っていない。

タカコ

どうしよう・・・。

と、不安げにグラウンドを見つめている。何かを探しているようだ。

上手から

部活を雨のため早く切り上げて帰宅する男子生徒の集団が校舎から出てくる。そのうちの一人が、タカコに気づいたようである。一人、その集団から抜け出して、雨に濡れたままのタカコに傘をさしかける。

ヨシヒロ

どうしたの？

タカコ あっフクヤくん・・・あ、うん実は、指輪を落としちゃって・・・探しにきたの。

ヨシヒロ

指輪？ここに？

タカコ

うん、だぶん、他探してもないからここだと思って。

ヨシヒロ　　そっかぁ・・・広いね。

タカコ　　・・・

ヨシヒロ　　オレも探すよ。ただし、今日はあきらめよう。

タカコ　　えっ？

ヨシヒロ　　服、ぬれてるじゃない？風邪ひくよ。

タカコ　　あっ・・・うん、そうだね。全然気づかなかった。

と言ってタカコ、少し笑う。

タカコ　　でも・・・

ヨシヒロ　　明日の朝には晴れるって、さっき誰かが言ってた。明日朝練あるんだ。おれ、早く来るから探すよ？部のほかのやつらにも手伝わせるし。

と言って、ヨシヒロ、タカコの顔をのぞき見る。

タカコ、少しグラウンドを見つめたまま、何も言わない。

ヨシヒロ　　なんか、あたたかい飲み物でも買ってこようか？寒いでしょ？

タカコ　　・・・

ヨシヒロ　　それか、うち来る？近くだけど。

タカコ　　驚いた表情でヨシヒロを見る。

ヨシヒロ　　それは嫌かぁ。

と言ってヨシヒロが笑う。

タカコも笑う。

するとどこからか、先生の声

先生　　おーい、おまえらそんなとこでなにやってんだ？暗くなるからな、早く帰れよ。

ヨシヒロ　　はーいはい、先生さようならー

ヨシヒロの傘で、二人は門のほうへ歩き出す。

二人が去った後のグラウンド  
思いつめたような面持ちで、傘もささずに一人の女の子(メグ)、グラウンドに歩いてくる。  
グラウンドの真ん中で足がもつれて倒れる。意識はあるようである。立ち上がりかけよう  
としたとき、ふと足元を見、「何か」見つけたようである。それを手にとる。

暗転

保健室

カナエ 落ち着いた？はい、これ。

とってってカップをメグミに渡す。カナエもカップを持っている。  
メグ それを受け取りながら、

メグ はい・・・

カナエ どうしたの？・・・私がいたから良かったけど、もうほかの先生みんな帰っちゃったから・・・

メグ すみません・・・

カナエ 帰ろうと思ったら、真っ暗なグラウンドに誰かいるんだもん、びっくりしたわよ。

メグ ・・・・・・

カナエ 何かあったの？

メグ いえ・・・ただ・・・どこにいったらいいか・・・

カナエ ・・・・・・  
メグ でも、大丈夫です・・・

と、メグはつくり笑いを浮かべる

カナエ そう？大丈夫そうには見えないけど。

メグ ・・・

カナエ 何かあったら、ここにいつでも来ていいのよ。私がいるときはいつも開けるから。

メグ                    ・・はい

カナエ                これ、おいしいでしょ。お土産でもらったの。

メグ                    ・・はい・・

カナエ                おいしいものはいいのよ。身体にも心にも

メグ                    ・・・もう帰ります。もうすぐ親が帰ってくるから。

カナエ                そう。送っていいこうか？

メグ                    いえ、大丈夫です。ありがとうございました。

カナエ                ほんとに大丈夫？

カップを置いて、メグ下手側へいき

扉のところでちよつと立ち止まって、そのまま去る。

#### 携帯のバイブ音

カナエ自分の携帯を確認する。

メールが来ていたようだ。メールを読んで、時間を確認する。カナエはため息をつく。

カナエ                あー・・・・

#### 暗転

#### 喫茶店

ウエイトレスが2人働いている。

一人(ワタ)はカウンターの奥に、一人(アカリ)はレジにいる。

窓際の席に男(アキト)が一人、本を読んでいる。誰かを待っているようだ。そこに女の二人組みが店に入ってくる。

アカリ いらっつしやいませ。二名様ですね。こちらへどうぞ。

その二人を窓際の男（アキト）の隣の席に案内する。

ハスミ で、どうなの？最近は？

シホリ えくもう最悪だよ。なんかさくあんまりおもしろくないんだよね。二人でいても

ハスミ どうして？この間まで仲良さそうにしてたじゃない。なんかあった？

シホリ うくん、なんかあったってわけじゃないんだけどね・・もうそろそろかな。

ハスミ え？そろそろって？

ウエイトレス（アカリ）、二人組みに水を持っていく。

アカリ ご注文はお決まりですか？

ハスミ えくと・・うくん・・おなかすいてんだよね。ミートドリアで。

シホリ 私はコーヒーを。

アカリ かしこまりました。

ハスミ でどうしたのよ。

シホリ 別れるってほどでもないのかもしれないけど・・別に嫌いになったわけじゃないし。

ハスミ うんうん。

シホリ 今日もじつはこれから待ち合わせてるんだよね。

ハスミ これから？

シホリ うん、8時に

ハスミ 彼、仕事？

シホリ 仕事っていうか、なんなんだろう、もうあんまり、興味ないんだよね。

ハスミ え？何してるかわからないの？

シホリ うん、最近電話もしないし。あんまり話してない。

ハスミ え？今日会うのは何日ぶり？

シホリ えくつと1ヶ月ぶり？かな。

アキト、二人の会話が気になる様子である。読んでいた本をテーブルに置く。

ハスミ 1ヶ月ぶり？

シホリ 1ヶ月ぶり。

ハスミ　それって付き合ってるの？  
シホリ　うん、まあもう3年目だからね、そんなもんよ。  
ハスミ　そんなもんなんだ・・・  
シホリ　で、今日会うかどうか、まだ迷ってるんだよね。めんどくさいし。  
ハスミ　そっかあ・・・  
シホリ　実はさ  
ハスミ　うん？

そこにウエイトレスがミートドリアとコーヒーを持ってくる。

アカリ　お待たせしました。ミートドリアと、こちらコーヒーになります。  
ハスミ　わー  
シホリ　・・・  
ハスミ　食べる？  
シホリ　私は、いいよ。  
ハスミ　じゃ、いただきます。  
シホリ　・・・  
ハスミ　で、実は、なんなのよ？もしかして好きな人が他にできたとか？  
シホリ　う・・・  
ハスミ　なになになに  
シホリ　いやっやっぱ、言うのやめた。  
ハスミ　えー！おいおい。  
シホリ　今度にするわ。今日は、なんかこんなところで言うもんでもないし。  
ハスミ　えーさらに気になるんだけど。  
シホリ　うん、彼に興味がなくなっただけだと思うんだよね。  
ハスミ　で？  
シホリ　それを今日言おうかな。  
ハスミ　お？別れるの？  
シホリ　うん、今決めた。  
ハスミ　いや〜3年にピリオドを打つのね。  
シホリ　それ、食べ終わったら、出よう。  
ハスミ　あ、あく待ち合わせね。8時だもんね。じゃ今度、その後を、教えてね。あ、あとその気になる話の続きね。

ハスミ、ミートドリアを食べる。

アカリ、携帯電話を取り出し、メールを打つ。

彼女からの返信はない。携帯電話をテーブルの上に置く。

とそこに、タカコとヨシヒロが店に入ってくる。

アカリ いらっしやいませ。2名様ですね。こちらへどうぞー

ヨシヒロ あ、おれはコーヒー、でタカコちゃんは？どうする？

タカコ じゃあロイヤルミルクティーに。

ヨシヒロ じゃあそれをお願いします。

アカリ かしこまりました。

アカリ コーヒーとロイヤ、お願いしまーす。ねね、ワタ！今来た男の子、格好

良くない？私タイプだな〜

ワタ どれ？

アカリ あそこ、ほらあの女の子と一緒に来てる子。

ワタ ……

アカリ ね！…え？ワタ、どうした？

ワタ いや…なんでもないよ。

アカリ え、もしかしてワタもタイプ？いやいやいや、それはこまるねえ〜

ワタ そんなじゃないよ！

アカリ なに？なに怒ってんの〜？

ワタ ほら、コーヒーとロイヤルミルクティーできた。ほらだして！

アカリ なになに〜？

アカリ、コーヒーとロイヤルミルクティーをヨシヒロとタカコの席に持っていく。

アカリ お待たせしました。コーヒーと、こちらがロイヤルミルクティーです。

ヨシヒロ どうも〜

2人温かい飲み物を飲んで一息ついてから、

ヨシヒロ そんなに大事なものの？

タカコ ……彼からもらったもので…

ヨシヒロ あ？なに、彼氏のか〜…どんな指輪なの？

タカコ　ダイヤがついた・・・

ヨシヒロ　え？それって・・・

タカコ　ん？

ヨシヒロ　いや、なんでもない。で、その彼氏はどこにいるの？なくしたらそんなに怒るような人なの？

タカコ　・・・ここ何週間か連絡が取れないの・・・

ヨシヒロ　え！？どこいつっちゃったの？

タカコ　・・・わからないの・・・電話も通じないし、メールも返ってこない。

タカコ泣きそうになりながら

タカコ　そうしたら、私彼からもらった指輪までなくしてて・・・

ヨシヒロ　えー・・・

タカコ　最悪・・・

ハスミとシホリ、お会計を済まして店を出る。

ヨシヒロ　ちよつとそれは、指輪だけでも見つけなきゃね・・・でも、今日はどちらにせ

よこの雨だし、探せないよ。

タカコ　・・・

ヨシヒロ　ゆっくり休んだほうがいいよ。それ飲んじやったら家まで送っていくよ。

タカコ　ありがとう・・・

ヨシヒロ　明日、探してみるよ。

アキトの電話が鳴る。

アキト　もしもし？・・・えっ？来れない？・・・そっか・・・わかった。おつかれ

さま。じゃあ。あとで、またメールする。・・・じゃ

電話を切る。

アキト携帯を閉じてうつむく



暗転

メグの家

メグが下手から入ってくる。

父親 おい、遅いじゃないか。どこに行ってたんだ。

メグ どこに行ってたっていいでしょ。お父さんに関係ないじゃん。

父親 なんだ、その態度は。

メグ居間を通り抜けようとするが、父親につかまる。

メグ 痛い、放して。

父親 お前が何を考えているかわからないから、聞いているんだ。

メグ そんなお父さんに話すことなんてない。

父親 この先どうするんだ。大学は行くのか？そんなに遊んでいて行けると思っているのか？

メグ そんなに遊んでないし、わかんない！わかってもしゃない。もうやめて。

父親の手を振りほどこうとしたとき、メグミのポケットから指輪が落ちる。

父親 なんだこれは？

と言って父親、床に転がった指輪を拾う

メグ なんでもない。拾ったの。

父親 拾った？これ、ダイヤじゃないのか？こんな高価なものをどうしたんだ？

メグ だから拾ったって言うてるじゃない。返して。

父親 本当か？

メグ やめてよ

父親 ……

メグ やめてよ、娘を疑うのもうやめて。私は、なにも悪いことなんてしてない。

メグ父親の手から指輪を取って、逃げるように上手に去る。

父親、頭を抱えて座り込む。

暗転

喫茶店

店員は今日はワタだけである。

タカコが窓際の席に座っている。タカコはメールが来るたびに一喜一憂している。ワタはカウンターの中で飲み物をつくっている。

ワタ、用意ができたロイヤルミルクティーをタカコのところに持っていく。

ワタ お待たせしました。ロイヤルミルクティーです。

タカコ あ、あとからもう一人来ます。

ワタ あ、そうですか・・・はい・・・

ワタ何か言いたそうにしているが、カウンターに戻る。

とそこへヨシヒロが入ってきてタカコのところにまっすぐ向かう。

ヨシヒロ ごめん！見つけれなかった！もうグラウンドぐちゃぐちゃで、でもみんな

に手伝ってもらって探してみただけど、なかったんだ・・・

タカコ こっちこそ、ヨシヒロさんにまかせきりにしちゃってごめんね。

私がなくすのがいけないんだもん。

ヨシヒロ ごめん・・・

タカコ ありがとう。

ヨシヒロ あのくその彼氏さ・・・なんでいなくなっちゃったの？なにか理由があったんじゃないの？

ワタ、ヨシヒロに水を持ってくる。

ワタ ごちゆうも・・・

ヨシヒロ コーヒーで。

ワタ あ、かし・・・

ヨシヒロ だって突然いなくなるなんておかしいでしょ。

タカコ ・・・・

ヨシヒロ どの人なの？

タカコ ・ ・ ・ お姉ちゃんの知り合いで、大学生なんだけど、 ・ ・ ・ 芸大で絵を描いて  
いる人なの ・ ・ ・

ヨシヒロ ・ ・ ・ 芸大生か？

タカコ 彼の絵が好きで、付き合い始めたんだけど ・ ・ ・

ヨシヒロ そのく連絡が取れなくなる前に、何か言っただけでなかった？別に別れようとか言

われていたわけじゃないんでしょう？

タカコ うん ・ ・ ・ そういえば ・ ・ ・ すごい人を見つけた、とか ・ ・ ・ なんとか

ヨシヒロ すごい人？それはなんだろうね ・ ・ ・ すごい人かあ ・ ・ ・

タカコ ・ ・ ・ なんかその人に弟子入りしたいとか ・ ・ ・

ヨシヒロ 弟子入り！？弟子入りって、絵のかな？絵だよな ・ ・ ・ 絵じゃなかったらなん

だろうな。急に料理ってわけじゃないだろうし。いや、でもな ・ ・ ・ 手に職

って考えもあるし ・ ・ ・

タカコ ・ ・ ・ 絵か ・ ・ ・

ヨシヒロ 絵だろ。

タカコ ・ ・ ・ ・ ・ ・ !

ヨシヒロ あ！あーそれじゃない？

タカコ あ！え！？あ ・ ・ ・ あ

ヨシヒロ 弟子入りしちゃったんじゃない？

タカコ その「すごい人」に？誰だったんだろう？

ヨシヒロ 名前聞いてないの？その人の。

タカコ 聞いたような ・ ・ ・ うう覚えてない。

ヨシヒロ 日本人？外国人？

タカコ 日本人みたいな名前の外国人だったような ・ ・ ・

ヨシヒロ なにそれ？

タカコ ううん

ヨシヒロ 名前がわかればなく

とそこへたくさんの荷物を持った疲れ果てた様子の男（カズキ）が一人店に入ってくる。

ワタ いらっしやいませ ・ ・ ・ い、一名様ですか？

カズキ、声にならない声で「一名」といって、近くの席に座る。

タバコに火をつけようとしたカズキがふと奥の2人（ヨシヒロ、タカコ）を見て

カズキ あ！・・・タカコ？

2人もカズキに気づき

カズキ あれ？何してんの？

タカコ ・・・？

ヨシヒロ ん・・・？

タカコ ・・・カズキ？

ヨシヒロ え？えくく！タカコちゃん？

と言ってヨシヒロはタカコのほうを見る。

ヨシヒロ あれ・・・彼氏？・・・じゃないよね？

タカコ、立ち上がってカズキの方を見る。

カズキ タカコなにやってんの？

タカコ ・・・

カズキ っていうかこいつだれ？

タカコ ・・・

ヨシヒロ

だれじゃねえよ、おまえ、彼女悲しますんじゃねえよ。どこ行ってたんだよ！  
タカコちゃん指輪までなくしちゃったじゃねえかよ。・・・あ！

タカコ、ヨシヒロの方を見て

タカコ ヨシヒロくん！

ヨシヒロ あ！

カズキ 指輪？えっおまえなくしたの？

タカコ ・・・

カズキ タカコ、手紙送ったんだけど届かなかった？

タカコ 手紙？

カズキ スペインから・・・

タカコ へ？うそ、届いてない・・・と思う・・・

カズキ いや、昨日かおとといには届いてると思うんだけど。  
タカコ ごめん、確認してない。なんて？  
カズキ そんなのここではないえねーよ。

タカコ、それを聞いて走って店を出て行く。

ヨシヒロ えっちよつとまつ……おい！おまえ追いかけるよ！  
カズキ えっや荷物あるし……  
ヨシヒロ 荷物はいいよ、とりあえず追いかけるって！

ヨシヒロに促されてカズキ店を出る。

ヨシヒロ、自分の席に腰をおろして深いため息をつく。  
そこへ、ワタがコーヒーを持っていく。

ワタ お待たせしました。コーヒーです。  
ヨシヒロ あどうも……。あ？あれワタダ？

ワタ そうだよ、気づかなかった？  
ヨシヒロ え、あく気づかなかった。はは……

ワタ 久しぶりだね、  
ヨシヒロ 久しぶり。え？なに？ここでバイトしてんの？  
ワタ そう。

ヨシヒロ わくなに？じゃあ見てた？  
ワタ 見た。変わってないね、そうやって人の世話焼いちゃうところ。  
ヨシヒロ あく、もしかしてこないだもいた？

ワタ いた。  
ヨシヒロ 恥ずかしいわく  
ワタ 肝心なときに余計なことを言っちゃうところか、ほんと変わってない。

ヨシヒロ いやいやいや、それは……。まあ、そうだね……  
ワタ あの子のこと好きなの？  
ヨシヒロ いやいやいや……。まあ……。そうだけど……。ふられっちゃったね……  
ワタ そうだね。

ヨシヒロ うわくストレートだなくお前も変わってないね。  
ワタ はは  
ヨシヒロ ははは

暗  
転